

水稲もち「峰の雪もち」の安定栽培法

農業研究センター 天草農業研究所

担当者：井手 眞一

背景・ねらい

「峰の雪もち」は、北陸農業試験場において「奥羽 302 号」と「ヒメノモチ」との交配により育成された品種で、平成 8 年に本県の認定品種として採用され、海岸島しょ地域及び平坦地域の早期栽培地帯を中心に普及が図られている。

そこで、本品種の栽培特性を把握し、生産安定を図るため施肥法、栽植密度について検討した。

研究の成果

- 1 「峰の雪もち」は、穂数がやや少ない特性があるので穂数を確保するため、地力に応じて基肥窒素施用量は、1a 当たり 0.5~0.75kg とする。
- 2 穂肥の施用時期、施肥量は、穂数の確保及び登熟歩合の向上を図るため、出穂前 25 日：0.3kg/a (窒素成分)・出穂前 18 日：0.2kg/a (窒素成分) とする。
- 3 栽植密度は、18.0・22.2・24.7 株/m²の 3 水準で検討した結果、18.0 株/m²では穂数の減少により減収するので、22.2~24.7 株/m²を目安とする。
- 4 4月中旬~5月中旬移植では、8月下旬までに収穫できるため冬春野菜の前作としての作付けが可能である。

普及上の留意点

穂いもち病にやや弱いので、適期防除に努める。

表1 施肥区別生育状況

試験年度	施肥区分	N 施肥量 (kg/a)				出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	穂いもち 病		
		基肥	分けつ肥	穂肥 (出穂前25日)	穂肥 (出穂前18日)									
平成7年	1	(標)0.48		0.27	0.18	7.10	8.15	65.9	17.7	412	0	0.3		
	2	0.73		0.27	0.18	"	"	67.1	17.6	435	0	"		
	3	0.48	0.25	0.27	0.18	"	"	67.5	17.7	420	0	"		
	4	0.48		0.27	0.18	"	"	65.6	17.7	432	0	"		
	5	0.48		0.27	0.43	"	"	67.1	18.4	418	0	"		
平成8年	6	(標)0.5		穂肥 (出穂前35日)	穂肥 (出穂前25日)	穂肥 (出穂前18日)	穂肥	7.21	8.29	70.8	19.9	364	0	0.5
	7	0.75		0.3	0.2	"	"	70.6	21.0	388	0	"		
	8	0.5	0.25	0.3	0.2	"	"	67.1	20.4	361	0	"		
	9	0.5		0.55	0.2	"	"	65.9	19.2	360	0	"		
	10	0.5		0.3	0.45	"	"	65.2	19.7	352	0	"		

- 1) 移植期は平成7年：4月19日、平成8年5月17日。
 2) 倒伏・穂いもち病については、0：無～5（甚）の区分による。

表2 施肥区別収量及収量構成要素

試験年度	施肥区分	精玄米重 (kg/a)	同左標準比 (%)	1穂 籾数 (粒)	登熟歩合 (%)	玄米 千粒重 (g)	検査等級
平成7年	1	(標)60.5	100	74.0	87.7	22.4	1中
	2	68.0	112	74.6	87.5	22.5	"
	3	65.0	107	74.1	89.0	22.4	"
	4	71.7	119	71.8	90.8	22.5	"
	5	66.7	110	69.4	92.2	22.6	"
平成8年	6	(標)53.3	100	70.8	87.4	23.1	1中
	7	56.2	105	71.9	86.3	23.8	1下
	8	56.9	107	72.8	93.0	23.2	1上
	9	50.1	94	70.9	89.6	23.0	"
	10	50.0	94	70.2	87.7	23.5	"

表3 栽植密度別生育及び収量

	栽植密度 (株/m ²)	穂数 (本/m ²)	精玄米重 (kg/a)	同左標準化 (%)
平成6年	(標)24.7	441	56.7	100
	22.2	416	55.7	98
	18.0	400	54.1	95
平成7年	(標)24.7	428	63.2	100
	22.2	389	60.6	96
	18.0	350	57.0	90